



税金は「幸せのピース」

大田区立大森第七中学校 三年 金子 杏

「私達が安心して暮らすためには様々なサービスが必要です。そのサービスにかかる経費を国民が共同して負担し合うのが税金です。」租税教室が終わり、配られた資料にはこう書かれていた。その文章を見ても、税金によって私達の生活がどれだけ支えられているかを知らなかった。今までの私はその文章を理解した気分になっていた。しかし、調べてみると税金は思ったよりも身近に私達の生活に関わっていると分かった。

毎朝、起きて学校に行く。通学路だけではなく、道路には税金が使われている。学校に着いて授業を受ける。教科書を使う。教科書は、これからの未来を担う私達のために税金によって無償で支給されているものである。教科書の値段は毎年変わるが、教科書一冊当たり中学校で平均五百四十七円となっている。また、令和六年度の中学生の人口が約三百万十四万人だから計算すると約十七億円となる。つまり、少なくとも十七億円もの税金を教科書代に充てるとのことだ。そして、教科の種類や数を考慮するとさらに莫大な税金がかかる。授業が終わり、給食を食べる。私の住んでいる大田区では令和五年度六月から給食費の無償化が実施されている。実際に私の家族は三人兄弟のため、月約一万三千円の節

約になる。お母さんも「助かっている」と言っており、税金はやはり身近にあることを実感できた。私の生活、社会は税金によって成り立っている。

もし、税金のない日本ではどうなってしまうのだろうか。どこへ行くにも必要な道路には信号がついておらず、道もボロボロ。救急車を呼んでも、病院へ運んでもらうにはお金を払わないと運んでもらえない。これらは税金によってまかなわれている公共サービスである。税金がなくなれば、サービスを受ける際に毎回お金を払わなくてはいけないかもしれない。そうなると私達の生活の「豊かさ」が守られなくなる。豊かさだけでなく、生きていけなくなるかもしれない。私達がこうして何不由なく暮らせていること、そして生きていること。それらを当たり前だと思わないでほしい。税金によって日々の「当たり前」が維持されているのだ。今の私達が納められる税は数少ない税かもしれないが、納めた税は幸せのピースとなる。その幸せのピースが集まり、幸せのパズルが完成する。つまり、幸せのパズルは私達の日常生活である。

今の私達にできることは自分の納めた税がどんなことに使われているか、税のゆくえを知ることなのではないだろうか。税のゆくえを知らなければ、税を納めなければいけないという消極的な考えを抱いてしまう。しかし、税を納めることで自分の日常生活も維持できていると理解すれば受け身ではなく、能動的に税を納めることができるだろう。税のゆくえを理解することで日々の物事の「見え方」が必然的に変わってくるのである。